

大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 夢・志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和6年12月2日発行 文責 校長 中尾 聡彦

本校で伊万里市日本語指導研修会がありました

11月1日(金)に、本校で「伊万里市日本語指導研修会」が行われました。

伊万里市内外から多くの参加者を迎えて、百武教諭が日本語指導の授業を公開し、その後、愛知教育大学の菅原雅枝先生の講演を聞き、とても充実した研修になりました。

この日までは、本校に日本語指導が必要な児童が8名在籍していました。(11月上旬に2名が転出しましたので現在は6名の在籍となっています。)

佐賀県内でも、外国にルーツをもち、日本語指導が必要な児童生徒の数が増えています。

日本語指導が必要な児童生徒とは、「日本語で日常会話が十分にできない児童生徒」や「日常会話はできても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じている児童生徒」のことです。

本校では、佐賀県から日本語指導の教員を1名、非常勤講師を1名配置していただいています。さらには、伊万里市から支援員を2名配置していただいています。これらのスタッフの献身的な支援のおかげで、日常会話や学習も少しずつ理解できるようになってきています。

わたしは、この子どもたちとかかわる中で、「はたして自分が言語も文化も違う国で学校に通い、長い時間を過ごすことになれば・・・」と自問します。わたしたちには分からないストレスを抱えたり、いろいろな思いを抱いたりしているのではないかと想像します。

幸いにも、本校の子どもたちは穏やかで優しく接してくれるので、自然と集団にも馴染んで毎日を過ごしているように思います。

そして、何よりもありがたいことは、地域の方々がこの子どもたちやご家族を受け入れていただき、いろいろな面でご理解いただいていることです。小麦原在住の井手さんは、子どもたちと一緒に登校してくださっています。子どもたちと、学校下の信号から坂道を歩いてこられる風景は、あたたかく、やさしさに満ちています。

本校に日本語指導が必要な児童生徒が在籍していることでいろいろな学びがあります。

今後も、様々な国の文化や習慣を受け入れながら子どもたちと共に学んでいきたいと思っています。



11月は「学び」の多い月でした

「学び＝勉強」というイメージがありますが、11月は様々な行事を通して、実感を伴った「学び」の機会が多くあったと思います。

8日(金)には、7・8年生による「大野岳清掃」が行われました。本校は、コミュニティ・スクールを推進しており、地域の方々から多大な支援をいただいています。この「大野岳清掃」は支援をいただくばかりではなく、地域貢献として7・8年生が南波多町のシンボルである大野岳を清掃するという意味があります。

また、17日(日)には、「南波多ふれあいまつり」が行われ、多くの本校の児童生徒も参加しました。2日(土)に行われた「伊万里市子ども話し方大会」に出場した、松高琴音さん(6年生)と木寺叶華さん(9年生)が堂々と自分の思いや考えを主張してくれました。また、4年生の合唱とダンス、ステージ2の合唱、そして、軽音楽サークルの演奏など、学習や練習の成果を披露してくれました。これも、地域の方々に喜んでいただく意味では地域貢献の一つだと考えています。

そして、21日(木)には、「福寿会」をはじめ地域の各種団体の支援を受けながら実施している「南波多こども教室」が最終回を迎えました。囲碁や昔遊び、絵手紙、郷土料理教室など、様々な活動を支援していただきました。特に最終回には、学校のシンボルでもある「愛郷坂」の桜の根元にきれいな花を植えていただきました。地域の方々子どもたちが一緒になって花を植えられている様子は南波多郷学館らしい風景でした。

【南波多ふれあいまつり】



【南波多こども教室】



御礼

11月23日(土)に、梅村育友会長をはじめ8名の役員さんが、桜の剪定作業等の環境整備を行っていただきました。おかげさまで、歩道に張り出していた桜の枝もすっきりとなりました。ありがとうございました。

